

令和7年度一関市食育推進協議会会議録

- 1 会議名 令和7年度一関市食育推進協議会
- 2 開催日時 令和7年7月23日（水）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 多目的ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 小野寺拓也委員（会長）、佐藤律子委員（副会長）、伊東陸子委員、佐々木梢委員、佐藤千代委員、及川祥子委員、滝田直子委員、小山祐二委員、伊藤瑠梨委員、高橋京子委員、田中久美子委員、石田かつこ委員

※欠席者 佐藤一則委員、斎藤賢委員、村上真委員、岩渕三枝子委員

- (2) 事務局 松田京士健康こども部長、
佐藤和幸健康こども部次長兼健康づくり課長、
佐藤純子健康づくり課副主幹、熊谷美鈴健康づくり課健康増進係長、
小野寺愛健康づくり課主任保健師、千葉彩香健康づくり課主事、
佐藤千尋健康づくり課栄養士、小野寺晴香健康づくり課栄養士、
岩渕芳枝こども家庭課栄養主査、木村幸子学校教育課栄養主任主査

5 議 題

(1) 報 告

ア 令和6年度食育の取組について

(ア) 第4次一関市食育推進計画指標進捗状況

(イ) 令和6年度食育の取組状況

(2) 協 議

ア 健康いちのせき21計画及び一関市食育推進計画に関するアンケート調査の実施について

(ア) 市民向けアンケート（案）

(イ) 中学生・高校生向けアンケート（案）

(ウ) 一関市食育推進計画

イ 計画の一本化について

(3) 意見交換 食育の主な取組について

(4) そ の 他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 小野寺会長挨拶

本日はご多忙の折、また、この猛暑の最中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より一関市の食育推進の活動に際して、委員の皆様におかれましては多大なるご理解とご協力、お時間を賜りまして厚く御礼、感謝を申し上げます。

さて、本日まさにそうなのですが、非常に暑い日が続いております。私、巖美町にございます「道の駅巖美溪」の産直を運営しているのですが、毎朝農家の方々と挨拶をしている中でこの時期気温が比較的低い朝の時間帯に皆様野菜を収穫して袋詰めして産直に持って来られるのですが、朝の時点で非常に高温のため作業ができないと。そして、もう少し早い涼しい時間に作業をしようとするとは今度はクマが怖い、獣が怖いと言っています。気温障害は作物のほかに、人体に与える影響もございまして、異常気象や獣による獣害、このようなものが我々の食を脅かしているように感じられます。

本日ニュースでもあったようにアメリカとの相互関税が15%と決定して食に大きく影響を与えてくると思います。また、記憶に新しいところで令和の米騒動ということで、我々日本人の主食であります米も安定供給に限りが見えてきていると、本当に食に関する環境がここ数年で大きく様変わりしてきております。

我々大人もですが、次代を担う子どもたちが今後食というものに対する正しい知識や課題を正しく認識していただいて、我々委員と一緒に食育というものを子どもたちと一緒に推進していければと切に願っております。そのためにも委員の皆様におかれましては、引き続き多大なるご協力を賜りたく存じますのでどうぞよろしく願いいたします。本日は限られた時間内での協議となりますが、ぜひ忌憚のないご意見、ご質問を投げかけていただきたく存じますのでどうぞよろしく願いいたします。

9 報 告

令和6年度食育の取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

10 協 議

健康いちのせき21計画及び一関市食育推進計画に関するアンケート調査の実施について、計画の一本化について事務局から説明を行った。

11 意見交換

委員一人一人から、所属団体等での食育推進の取組について意見交換を行った。

委 員 先ほど質問しそびれてしまったので今質問させていただくが、市民アンケートの11ページの間48「あなたが食中毒予防で気をつけていることはありますか」で

「ある・ない」と選択肢があるが、前回のアンケートのようにどのようなことをしているかを選択肢で聞いた方が良いのではないかと。

事務局 前はどのようなことに気を付けているか聞いていたが、今回はWEB回答の関係で設問の数を減らして回答率を上げていきたいため、今の時点では削っている。まだこのアンケートは完成ではないため、本日のご意見をもとにどのように設問を設けるかを事務局で協議させていただきたい。

委員 大東町の興田婦人会で地域に伝わる郷土料理を伝えようとして取り組んでいる。毎年文化祭で地域に伝わるきび団子を作り、皆さんに食べていただいている。実際に作らないと目にすることがないため、伝えていきたいという思いで行っている。

委員 保育園では、例年通り野菜の栽培など年齢に合わせた食育の計画をして実施している。今年特に力を入れて行っているのは5歳児が行っている米作りである。昨年度から取り組み始めたが、昨年は収穫時期に鳥に全て食べられてしまい失敗した。今年は収穫できるように対策を講じて実施していきたいと思っている。1歳から3歳児は遊びの中で食育につながるようにしている。毎日の食事が1番の食育だと思っている。毎日の食事を充実させて食事の時間を大切にしている。

委員 幼稚園では季節の行事に関する献立をみんなで一緒に食べて、行事の話を聞きながら季節を感じている。共通の食材を取り入れた献立で、家庭で調理したものを弁当に入れていただいているチャレンジ弁当を年6日間実施している。野菜の栽培も行っており、自分で育てたということで食に関心を持ってもらえるようにしている。また、こども家庭課の栄養士から食育だよりを各園に配信していただいているため、それを生かしながら家庭にも食育を提示している。

委員 食育は大事な分野であると感じている。今日から夏休みに入っているが終業式の時に早寝・早起き・朝ごはんについて話をした。この3つが揃うことで朝ごはんは1日のやる気スイッチにつながることを口頭と広報で伝えた。また、給食センターの栄養教諭の食育指導を年間を通して数回行っている。子ども達は意欲をもって楽しみながら勉強している。興田小学校で数年続けて行っている郷土愛を育む食育交流事業について、講師の先生に来ていただき高学年の子どもたちが参加する。「げんべた」や「はっと汁」などを作り「おいしい」、「家でも作ってみたい」という感想が聞かれた。今年はこれから実施するため、楽しみにしている。学校教育課からは地域に伝わる珍しい野菜の紹介もしていただいております。子どもたちが新しい刺激を受ける場となっている。給食時の校内放送では給食センターから来ている献立表の中から食品群の色分けや献立に関するメッセージを流して全校生徒で聞いている。低学年は野菜を栽培し、お楽しみ会で作って食べて

いる。

委員 高校では本日面談最終日。面談の際に保護者の方へ、「起きる時間・寝る時間・学習時間の固定を守ってください。」と話し、休業期間中に生活習慣を変えないようにと担任を通じて働きかけている。また、世界各国と比べて日本はカルシウムと鉄分が不足していると教科書に書いている。生徒からは最近牛乳を飲まなくなったという声が聞こえてくるのが度々ある。児童・生徒達にとって小学校から中学校までの9年間、給食生活の中でなじみがあった牛乳は高校に入ってから弁当になった途端飲まなくなっている。昨年度から保健室の計らいで卒業前に食生活について学習会で話してほしいと頼まれている。朝ごはん・晩ご飯・お弁当の振り返り、今後卒業してからは一人暮らしになる生徒も多いため、「朝ごはんを食べましょう。」と呼びかけ、食事の大切さを強調して話している。効果が表れるには数年かかると思うが、続けることによって卒業生たちにとって役に立つことを祈りながら続けていこうと思っている。

委員 大学の授業で学生に、教育現場で無理に食べさせようとして起こった事例や偏食について具体的な事例を出しながら話すことが多い。しかし、給食に関する現場における事件に学生の関心が薄い。教員が食に関してしっかり伝えていかなければいけない。また、児童養護施設でも勤務しているが、その施設では子ども食堂を開催しており、民生委員の賛同も得て子ども達が自ら作って食べている。人数は多く実施できないが24人、25人くらいで班編成をして包丁を使うため、職員が見守りながら行っている。長期休業中にも実施予定である。家庭でも調理をしているかもしれないが、自分で調理したものを食べる過程も大切であると思っている。

委員 学校給食部会では市内の6つの給食センター、県立の一関清明支援学校の栄養教諭、平泉小学校の栄養教諭とともに活動している。全ての学校を巡回しながら食育を進めている。毎日の食事が1番の食育だと思っている。子ども達が卒業後に思い出しながら食を整えていける力をつけていきたいと思いながら献立を立てているが、物価高の影響を受けている。必要とする栄養素を揃えるのに精いっぱい苦労している。推進計画の中の主な取組として地産地消の取組で学校給食における地場産物について明記されているが、生産者の高齢化や団体の減少などにより、学校給食に提供するという生産者の組織体制も難しい状況になっている。学校給食では必要数も多く、形の指定や条件等も難しいため使いたいと思っても使える状況にない。

今後もしろいろ教えていただきながら子ども達を共に成長させていければと

思っている。

委員 栄養士会では毎年10月前後に栄養の日の取組を実施している。一関市では毎年農業祭と合わせて活動を行っている。一関市食育推進計画の中の「塩分を控えている市民の割合」は令和3年には30%に満たないが、令和8年には50%を超えるように取組を強化していきたい。また、自然に健康になれる環境づくりとして、いわて生活協同組合と協力して昨年からは適塩で野菜たっぷり弁当を販売している。9月26日にはアイドームで筋力アップ事業（フレイル予防）の講演会と実技の実施を予定している。岩手日報にも近日掲載される予定である。身体測定も行い、一人一人に結果を返し、次の実践につなげることを目標にしている。ぜひ参加いただきたい。

委員 保健所では、対住民よりは管理栄養士や栄養士、保育所や幼稚園の園長先生などの関係者への食育活動を行っている。主な内容は、特定給食施設における栄養管理状況の確認・指導と、循環器病等の予防緊急対策事業ということで健康的な食事推進マスターの活動支援研修や育成事業などの食生活改善キャンペーン事業を行っている。

委員 歯科衛生士の食育活動について紹介する。ほとんどの方が虫歯又は歯周病を入りに歯科通院をされている。予防には食生活の改善が重要。習慣は子どもの頃から形成されるため、子どもの間の習慣が将来の歯科の病気を左右する。3歳の味覚形成までにお菓子やジュースがやめられない、3食しっかり食べないという習慣ができてしまうと生活習慣病へまっしぐらになる。食育をおろそかにすると、和食がユネスコ無形文化遺産に登録された理由の1つである素材を生かした味付けを好まない子どもが多くなり、その結果欧米食になり、若くして生活習慣病となってしまう可能性がある。そういった意味で歯科衛生士が子どもの味覚形成や歯科の病気にならないようサポートして予防歯科につなげていきたい。子どもの虫歯は少なくなったが、口の機能面で噛めない・飲み込めない・好き嫌いがある・お口ぼかんの子が多い。昨年は一関市歯科医師会の協力で岩手県歯科衛生士会のお口遊び保健事業を10月に大東の渋民保育園、藤沢の藤沢こども園で2回開催した。最初に保育園から対象園児の食べることの心配事に関するアンケートをいただき、訪問時に動画を撮り、それを歯科医師、言語聴覚士などに診断して意見をいただくという細やかな内容の事業である。ライフステージごとに適切な食育を提供することで健康な口の環境づくりを進めて将来の口や歯のトラブルを予防する。授乳期から高齢期まで歯科の大切さとともに食の大切さも伝えて予防歯科へつなげていきたいと思っている。歯科

衛生士だけではできないため、今日お集まりの方々と協力しながら進めていきたい。

委員 食生活改善推進員として活動しており、ベジメーター®による野菜摂取量の測定や郷土食の普及を行っている。これからも皆さんと共に活動していきたい。また、一人暮らしの人には行政等が食に関して指導をしているが、家族と同居していても日中は1人でいる年配の方も多。そのような方からは最近暑いから食べるのが嫌になったという話を聞く。また、スーパーで会った方は買い物カゴにカップラーメンをいっぱい入れて購入している人もいた。そのような方々にも今後、何か手を差し伸べる必要もあるのではと感じている。

委員 厳美町の道の駅で産直を経営している。10年から20年前は少量多品目で形が不揃いでも出してくれていたが、最近は少子高齢化などによる廃業の影響もあり、1つの品目を大量に産直・市場等に流す農家が増えている。珍しい野菜も昔ほど出なくなってきたという印象がある。珍しい野菜も含めてお客様と対話をしながら料理の仕方を職員も勉強しながら伝えていく。従業員よりもお客様の方が詳しいため、教わりながら楽しく会話をするという形で普段経営・販売をしている。また、道の駅では随時餅つき体験を実施している。今年は7月29日に厳美の児童クラブで行う予定。また、教育委員会でも秋に2回程度実施を予定している。子ども達には難しい言葉では伝わらないため体験や質問、クイズなどを通して食育を実施している。

12 担当課 健康こども部健康づくり課